

松岡氏と野田首相の第一次交渉不調の終り

松岡氏と野田首相の第一次交渉不調の終り。全權を委任すべしと云ふ。直ちに
野田首相は松岡氏を訪問し、會見を希望す。其後六日、八日、十日の三日
間に及んで折衝し、更に十八日會見のついでに回答す。答へあつた
が別項、如く、會社が全然誠意なきを以て、松岡氏は元々の如き回
答書を送つて、十八日の會見を拒絶した。

「昨日十五日の御提案の解決策案は、余りの巨萬甚だしく従つて
來る十八日の御回答の事、困難と存じ候と松岡氏承認相成
度候、何れも總選挙後重んじて御意見を得べく存候
謝責方と於かせらるるも、更に御考慮置き下さる度希
望致候
頃首

之に松岡氏と會社の交渉は、一絶し、即ち第一次の交渉は不調
に終つたわけである。

争議の一般的状态

罷工流行以來、六月月の長い戦を或時は猛烈と又或時は灯時したま
まに、種々様々の形をとつて開つてゐるが、双方共一歩前進一歩
退却の状態である。六月月の今日尚開始當時の夫の如く結末を豫想し
得ない肩様である。

我々議回は、此局面を打開するものとして、一方に於ては既報の如く要
求撤回、辭交交渉、松岡氏一任と云ふ意思の切つた大英断を以て會
社との交渉、端緒をつくらんと共に、他方に於ては、極度の経済的緊
縮を断行して、物質的持久力の増大のつとめを以て、外部より
應援と相俟つて益々猛烈をいひ、謀劃を断行を繼續して、
或者は會社の廻し者刺さるれば、鮮血にまみり、街頭に到此あり、或
者は裏切者を擲へる等、慘たる市街戦は、日夜毎に行はれ
ざるがら野田の天地は、國際戦争場裡を彷彿せしむるものがある。